

Izayoi String Quartet

十六夜弦楽四重奏団

The 10th Regular Concert

ブラームス 弦楽四重奏曲 第2番

Johannes Brahms, String Quartet No. 2, in A minor, Op. 51

スメタナ 弦楽四重奏曲 第1番「わが生涯より」

Bedřich Smetana, String Quartet No. 1, in E minor "From My Life"

2019年 7月27日(土) 18:30 開演 (18:00 開場)

入場無料

未就学児のご入場はご遠慮ください。
携帯電話の電源はお切りください。
写真撮影等其他のお客様の御迷惑になりますので
ご遠慮ください。



一井 宏磯 1st Violin

花はただ美しく咲き結れていく。人の心はそういったものに意味を与え、美や神聖なるものといった概念を生み出す。それに重要性や善し悪しを与える心が対立、分裂、抑圧、破壊を人々にもたらしてきた。物事に意味を与えない、またはないことに気がついているとき最も美しい花が咲く。ところが心がそれをとらえた瞬間に善悪や嗜好による意味合いが与えられ、本来の姿が失われる。理想や希望といった心によって生み出された幻影に惑わされず、あるがままの真実に気がついている心は最も美しく神聖なものである。

糸井 佐知子 2nd Violin

久しぶりに3日間発熱。ただひたすらに布団の中で小さく丸くなって過ごし、それなりに食べ飲み、3日間通して1000歩も歩かなかった。なのに体重は1.5キロも減っていてびっくり。3日目に+1度を切るレベルまで回復したので、布団の中で、10年日記帳に懸案だった2012年の毎日をスケジュール帳から書き出す。この年の7、8月私は下の二人(当時小5と中2)を連れて18年ぶりにカナダを訪れた。それは子どもたちに家族の大切な共通体験を紹介しなかったから。あふれる蘇る記憶と共に、人は自分にとって大切だと思える記憶の欠片や言葉、思い浮かんだメロディーや曲を他者と共有できる形を見つけて繋がついていくことで、実は自分の姿に出会えるのだ、とハッとさせられたことでした。今日も私の人生のひとつときをご一緒してくださって、ほんとうにありがとうございます。

吉川 昌毅 Viola

知らない土地で、地図と勘を頼りにクルマを走らせるときの、あの感じ。迷い込んだ旧街道沿いに古い家並みを見つけたり、薄暗い山道の先に苔むしたレンガ積みのトンネルが口を開けていたり、牧場の中の真っ直ぐな道の向こうの低い山並みから白い雲がもくもく湧き出したり、行き着いた岸の上から夕陽を浴びる入江が見えたり。次のカーブを曲がったら、今度はどんな風景に出会えるだろう？ クワルテットにはいつも、そんなワクワクがある。

久々津 邦子 Violoncello

・・・「さあ、切符をしっかりと持っておいで。お前はもう夢の鉄道の中でなしに本当の世界の火やほげしい波の中を大腿にまっすぐに歩いて行かなければいけない。天の川の中であつた一つのほんたうのその切符を決しておまへはなくてはならない。」あのセロのやうな声かしたと思ふとジョバンニは…(異稿 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」第三次稿より)
他にも「…セロのやうなごうごうした声か…」「…あのやさしいセロのやうな声か…」「…あのなつかしいセロの、しづかな声か…」と至る所で「セロのやうな声」にジョバンニを論し導く役割を与えている。賢治は自分でもセロを弾いていただけあって、この楽器の音色の特徴を的確に表現している。ただ、セロ弾きとしては残念だが、この「セロのやうな声」の部分は、我々がよく知る最終稿においてすべて抹消されている。このことは、第三次稿までは、最後まで指導者を必要としていた幼く弱いジョバンニが、最終稿においては、幻想の旅を経て、自分自身の想像力によって人生の哲学を得るまでに成長したという証であろう。またこの最終形において賢治自身も、物語に余計な説明を必要としない、詩人としての筆力を完成させた、と言えるのではなからうか。

会場：カトリック西陣聖ヨゼフ教会

京都市上京区新町通一条上ル
地下鉄烏丸線今出川駅より徒歩 10分

主催、お問い合わせ：十六夜弦楽四重奏団
糸井佐知子 Tel.: 075-467-4329
イチイヒロキヴァイオリンショップ (株) <http://violinshop.co.jp>

